

[成果情報名] 早熟性で高糖度な温州ミカン「木村早生」の品種特性

[要約] 早生温州「木村早生」は、成熟期が10月下旬～11月上旬である。果実特性は、果形が扁球形で、糖度が高く、果皮色の橙色の濃度が高い特徴がある。

[キ - ワ - ド] 「木村早生」、成熟期、果形、糖度、果皮色

[担当] 長崎果樹試・常緑果樹科

[連絡先] 0957-55-8740、takami@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 九州沖縄農業・果樹

[分類] 普及

[背景・ねらい]

県内及び県外の温州ミカンの品種・系統において、本県への適応性を検討し、早生温州としては、外観が優れ、高糖度で、早熟又は樹上完熟栽培に適する品種・系統を選抜する。

供試品種「木村早生」の来歴は、昭和51年に熊本県で発見された「宮川早生」の枝変わりである。

[成果の内容・特徴]

- 1．樹勢は「宮川早生」に比べてやや強く、枝しょうは「宮川早生」に比べて節間が長くやや徒長し下垂する性質がある。着花は早生温州としては少ないが、有葉花が多く結実に問題はない。
- 2．果実は、果形指数が129～133の扁球形で果面は滑らかである（表1、2）。
- 3．成熟期が10月下旬～11月上旬で、糖度（2001年と2002年の平均値）が11月上旬で12.9、11月下旬で13.2と高く、果皮色は橙色が濃い（表1、2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．2000年のように果実生育期間に雨が多く、初結果等でやや着果量が少ないような条件下では大果になりやすい。
- 2．隔年結果性が強い方なので、枝別摘果等で連年着果を図る。
- 3．樹上で11月下旬まで着果させると、浮き皮果の発生が増加し、果こう部付近の果面にクラッキングが発生しやすい。（表2）

[具体的デ - タ]

表1 11月上旬の果実特性

品 種	1果平均重 (g)	果形指数	糖 度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)	糖酸比	果皮色 ^z	果皮粗滑 (1.2.3)	浮き皮 ^y
【2001年】								
木村早生	115.2	129	13.2	0.67	19.9	9.2	1.2	0
原口早生	115.7	133	10.7	0.73	14.9	7.8	1.0	0
【2002年】								
木村早生	117.5	130	12.6	1.06	11.9	9.4	1.0	0
原口早生	125.2	134	10.9	0.83	13.1	9.0	1.0	0

^z カラ - チャ - ト

^y 発生度 = (指数 × 発生果数) / (3 × 調査果数) × 100

表2 11月下旬の果実特性

品 種	1果平均重 (g)	果形指数	糖 度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)	糖酸比	果皮色 ^z	果皮粗滑 (1.2.3)	浮き皮 ^y
【2000年】								
木村早生	227.6	139	10.1	0.61	16.6	8.6	1.0	24
原口早生	143.8	128	9.6	0.76	12.6	8.1	1.0	30
【2001年】								
木村早生	128.4	133	13.3	0.63	21.2	10.0	1.0	27
原口早生	126.5	127	11.9	0.66	18.2	8.6	1.0	20
【2002年】								
木村早生	111.3	133	13.1	0.82	16.0	10.2	1.0	46
原口早生	135.3	133	10.9	0.77	14.2	8.6	1.0	6

^z カラ - チャ - ト

^y 発生度 = (指数 × 発生果数) / (3 × 調査果数) × 100

[その他]

研究課題名：温州ミカンの新品種の適応性

予算区分：県単

研究期間：平成14年度（昭49～）

研究担当者：高見寿隆、山下義昭

発表論文等：なし